

遺伝子組換え生物の産業利用における安全性確保総合研究

【平成19年度概算決定額 508（508）百万円】

対策のポイント

遺伝子組換え生物多様性影響評価に必要な科学的知見の集積、国内における遺伝子組換え作物の商業利用に向けた技術開発等を行います。

（開発に取り組む技術の例）

- ・ 新たに流通が見込まれる組換え遺伝子の検出技術
- ・ 葉緑体への遺伝子導入等による組換え遺伝子の拡散防止技術
- ・ 隔離距離の設定や開花期の調整等による交雑抑制技術

政策目標

○2010年までに、遺伝子組換え作物の高精度・迅速な検知技術を開発する。

○2010年までに、新たに実用化が見込まれる遺伝子組換え作物の環境への影響を評価する手法を開発する。

<内容>

生物多様性影響評価に必要な新たな遺伝子組換え生物に関する科学的知見の集積、検出技術や遺伝子拡散防止技術など遺伝子組換え作物の安全・信頼の確保のための管理技術の開発、交雑リスクを低減させる栽培技術など一般作物との共存のための技術開発等を行います。

<実施主体> 独立行政法人、民間団体等

<実施期間> 平成14年度～平成22年度

[担当課：農林水産技術会議事務局技術安全課（03-3501-3780（直））]

遺伝子組換え等先端技術安全性確保対策

遺伝子組換え生物の生態系への影響や作物との交雑に対する国民の懸念

遺伝子組換え生物の産業利用における安全性確保総合研究

生物多様性影響評価に必要な新たな遺伝子組換え生物に関する科学的知見の集積

- 実用化が見込まれる遺伝子組換え生物の生物多様性影響評価のための研究
- 遺伝子組換え生物の生物多様性影響に関する科学的指摘を解明するための研究

カルタヘナ法に基づく適切な生物多様性影響評価の実施

遺伝子組換え作物の安全・信頼の確保のための管理技術の開発

- 遺伝子拡散防止等安全確保技術の開発（生物的封じ込め）
- 新たに流通が見込まれる組換え遺伝子の検出技術等の開発

適切な管理技術による安全・信頼の確保

遺伝子組換え作物と一般作物等との共存のための技術開発

- 商業栽培を想定した交雑リスクを低減させる栽培技術の開発
- 流通における混入リスクを低減させる管理技術の開発

商業栽培に向けた環境づくり

海外諸国における安全性確保研究や安全性評価の事例等の分析

遺伝子組換え作物等に関する意識調査事業

- 対話を通じた意識把握
- 分かりやすい情報の発信

一体的に実施

成果のフィードバック

遺伝子組換え技術の適切な使用

国民生活、食料・環境問題への貢献